

しらぬひ 不知火の屋根かけ栽培

簡易なパイプハウスを設置し、不知火（夏柑中間台）の屋根かけ栽培を行い、露地栽培と比較した。屋根かけは3月上旬に天井ビニールを被覆し、7月上旬に除去、11月上旬に再度被覆した。

その結果、次のことが明らかになった。

- ① 屋根かけ栽培によって新梢の伸長が優れ、葉も大きくなり、樹勢が良好になる。
- ② 果実の発育がよく、収穫果の大果率が高くなる。また、果皮は比較的滑らかで、果皮の障害果が少なく、商品果率が高い。

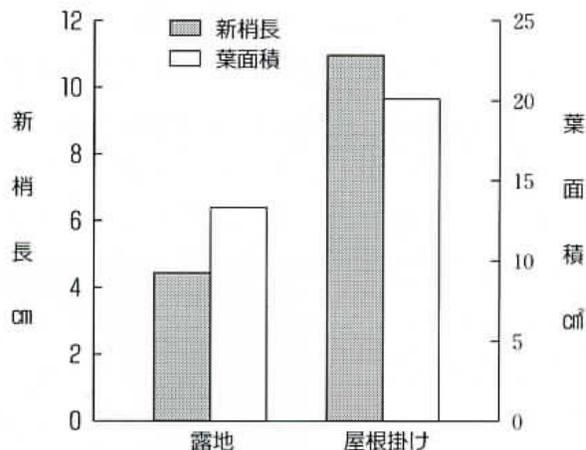


図1 新梢の長さ、葉の大きさ

表1 果実の大きさと外観

処 理 区	大果率 (2L以上%)			果梗部の突出果率(%)			障害果発生率(%)	
	H 5年	H 6年	H 7年	H 5年	H 6年	H 7年	H 5年	H 6年
露 地	52.1	44.0	56.6	92.3	51.5	79.2	49.2	51.2
屋根掛けハウス	79.2	58.8	86.2	97.8	95.2	96.0	30.9	4.9

- ③ 果実の糖度は、屋根かけでやや高くなる傾向がみられるが、クエン酸は露地とほぼ同じレベルである。

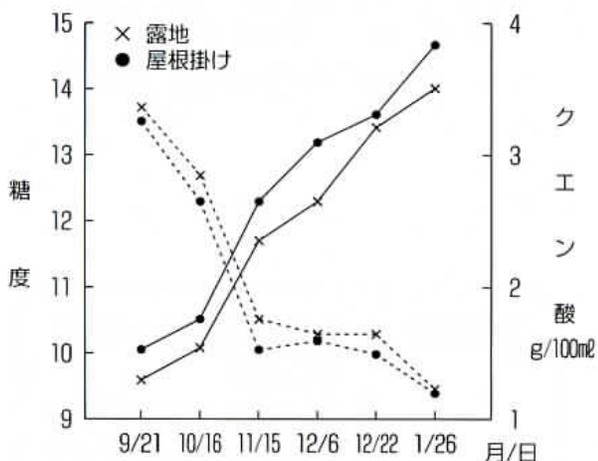


図2 糖、酸の推移 (平成6年)

このようなことから、屋根かけは新梢が長くなり、樹勢が良好で、果実の肥大が優れ、商品化率も向上する効果がある。しかし、屋根かけで開花期が露地よりやや早くなるものの、果実の熟期を促進するほどの効果はないので、出荷販売は露地のものと同じ時期になる。

なお、不知火はこの試験結果からみて温度要求度が少し高い品種と推察され、省加温栽培で適正に水管理すれば、糖度を高めるとともに熟期を促進することができるものと考えられる。今後検討する必要がある。

(栽培班：主任研究員 加美 豊)